

商業科 「簿記」

単元名

「簿記の基礎」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について、企業活動の展開と関連付けて見いだす
- (3) 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簿記の必要性と意義、目的、歴史等について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	簿記の必要性と意義、目的、歴史等について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	簿記の必要性と意義、目的、歴史等について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（2時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（2時間）	1 簿記とは 2 簿記の目的 簿記の目的の学習を通して、簿記の必要性和科目を学ぶ意義について考察する。 3 簿記の種類 4 簿記の歴史 5 簿記の前提条件 ・ 各種会計帳簿の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、簿記の目的と必要性を理解する。 ・ 実際の会計帳簿から、簿記の前提条件について理解する。	態 知		・ 各種会計帳簿を調べることで、簿記の学習に意欲的に取り組もうとしている。 観察・ワークシート ・ 実際の会計帳簿より会計単位、会計期間、貨幣単位の前提があることを理解している。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 貸借対照表の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 貸借対照表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす
- (3) 貸借対照表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
貸借対照表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	貸借対照表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	貸借対照表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（2時間）	1 簿記の5要素 2 資産とは 3 負債とは 4 純資産（資本）とは 資産・負債・純資産（資本）の意義を実務と関連させて理解する。	知 思	○	・ 資産・負債・純資産（資本）について理論と実務に関連付けて理解し、分類できる技術を身に付けている。 観察・ワークシート ・ 資産・負債・純資産（資本）の関係より、純資産（資本）等式を考察している。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「収益・費用と損益計算書」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 損益計算書の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 損益計算書の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。
- (3) 損益計算書の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
損益計算書の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	損益計算書の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	損益計算書の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（2時間）	1 収益とは 2 費用とは 収益・費用の意義を実務と関連させて理解する。 ・ 収益・費用の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、収益・費用の意義を理解する。 ・ 収益と費用の意義と当期純利益の計算を理解する。	知 思	○	・ 収益・費用について理論と実務に関連付けて理解し、分類できる技術を身に付けている。 観察・ワークシート ・ 収益の発生は純資産（資本）を増加させ、費用の発生は純資産（資本）を減少させることを考察している。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「取引と勘定」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 取引と勘定の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 取引と勘定の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。
- (3) 取引と勘定の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
取引と勘定の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	取引と勘定の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	取引と勘定の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（1時間）	1 簿記上の取引 2 勘定 3 勘定記入の法則 簿記上の取引を理解し、勘定の意義と勘定記入に関する技術を身に付ける。 ・ 簿記上の取引の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、取引の意義を理解する。 ・ ワークシートにある具体的な5要素の勘定を基に勘定の意義と勘定記入に関する技術を身に付ける。	思 態 知	○	・ 簿記上の取引を理解し、取引の具体例を他者に意欲的に説明しようとしている。 観察 ・ 勘定の意義を理解し、勘定の記入に関する技術を身に付けている。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「仕訳と転記」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の見込み

- (1) 仕訳と転記の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 仕訳と転記の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。
- (3) 仕訳と転記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
仕訳と転記の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	仕訳と転記の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	仕訳と転記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（3時間）	1 仕訳 2 転記 簿記上の取引を仕訳し、勘定に転記する技術を身に付ける。 ・ 仕訳帳の意味と形式を学習し、記入方法を身に付ける。 ・ 総勘定元帳の意味と形式を学習し、仕訳帳から総勘定元帳への転記方法を身に付ける。	知	○	・ 仕訳・転記を正確に行う技術を身に付けている。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「仕訳帳と総勘定元帳」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 仕訳帳と総勘定元帳の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 仕訳帳と総勘定元帳の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。
- (3) 仕訳帳と総勘定元帳の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
仕訳帳と総勘定元帳の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	仕訳帳と総勘定元帳の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	仕訳帳と総勘定元帳の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（2時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（2時間）	<ol style="list-style-type: none"> 1 帳簿への記帳 2 仕訳帳への記入 3 総勘定元帳への転記 4 残高式の総勘定元帳の場合 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 主要簿（仕訳帳・総勘定元帳）への記入の学習を通して、主要簿の原理について理解し、記入する技術を身に付ける。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主要簿の意味と形式を理解し、ワークシートにある具体的な取引例を基に仕訳帳への記入と総勘定元帳へ転記をする。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要簿に正確に記入できる技術を身に付けている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察・ワークシート</div>

商業科 「簿記」

単元名

「試算表の作成」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 試算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 試算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。
- (3) 試算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
試算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	試算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	試算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （3時間）	1 試算表とは 2 試算表の種類と作り方 3 転記の正確性の検証 試算表の作成をとおして、試算表の役割と実務における課題を考察するとともに、試算表を作成する技術を身に付ける。 ・ ワークシートにある試算表の誤りを指摘し、転記の正確性を検証し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。 ・ ワークシートにある具体的な取引を基に試算表を作成する。	知 思	○	・ 試算表の意味を理解し、試算表を正確に作成できる技術を身に付けている。 ワークシート・定期考査 ・ 試算表の作成の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「精算表」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 精算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 精算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。
- (3) 精算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
精算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	精算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	精算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（2時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （2時間）	1 精算表 2 6桁精算表の記入方法 精算表の学習を通して、精算表の役割と実務における課題を考察するとともに、作成する技術を身に付ける。 ・ 精算表の意味を理解し、ワークシートにある具体的な取引例を基に精算表の作成をする。	知	○	・ 精算表を正確に作成できる技術を身に付けている。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「決算」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の見目標

- (1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 決算について自ら学び、適正な決算の手続きと財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算について自ら学び、適正な決算の手続きと財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（2時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（2時間）	<ol style="list-style-type: none"> 1 決算とは 2 決算の手続き 3 決算の本手続き－総勘定元帳の締め切り 4 決算の本手続き－繰越試算表の作成 5 決算の本手続き－仕訳帳の締め切り 6 決算の報告 <p>決算の学習を通して、決算の役割を考察するとともに、決算手続きを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 決算の流れを発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、決算の意義を理解する。 ・ ワークシートにある具体的な取引例を基に決算の手続きを理解する。 	知 態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決算について理論と実務に関連付けて理解し、決算手続きができる技術を身に付けている。 <u>観察・ワークシート</u> ・ 決算の課題を見だし、その課題に対応している <u>観察・ワークシート</u>

商業科 「簿記」

単元名

「会計帳簿」

〔指導項目〕

第1編 簿記の基礎

第1章 簿記の基礎

第2章 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表

第3章 収益・費用と損益計算書

第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表の作成 第8章 精算表

第9章 決算 第10章 会計帳簿

1 単元の目標

- (1) 会計帳簿の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 会計帳簿の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。
- (3) 会計帳簿の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
会計帳簿の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	会計帳簿の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	会計帳簿の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（2時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（2時間）	1 主要簿と補助簿 2 分課制度と帳簿組織 会計帳簿の学習を通して、会計帳簿の役割と実務における課題を考察するとともに、会計帳簿の意味を理解する。 ・ 会計帳簿の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、会計帳簿の意義を理解する。	思考	○	・ 会計帳簿の意義を理解し、実務における課題を見いだす。 観察・ワークシート

商業科 「簿記」

単元名

「現金と預金の取引」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 現金預金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 現金預金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 現金預金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現金預金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	現金預金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	現金預金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （2時間）	1 現金 2 現金出納帳 3 現金過不足の処理 現金に関する学習をとおして、一連の現金に関する会計処理を理解するとともに、現金に関する実務における課題を考察する。	知	○	・ 現金の分類・仕訳、現金出納帳への記帳等、現金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査
	・ ワークシートにある具体的な現金の取引を通して、現金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	思 態	○	・ 現金の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第二次 （2時間）	<p>4 当座預金 5 当座借越 6 当座預金出納帳</p> <p>当座預金に関する学習をとおして、一連の当座預金に関する会計処理を理解するとともに、当座預金に関する実務における課題を考察する。</p> <p>・ ワークシートにある具体的な当座預金の取引を通して、当座預金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。</p>	知 思 態		<p>・ 当座預金に関する決済方法を理解し、当座預金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査</p> <p>・ 当座預金の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査</p>
第三次 （2時間）	<p>7 その他の預金 8 小口現金 9 小口現金出納帳</p> <p>普通預金、定期預金、小口現金に関する学習をとおして、一連の預金に関する会計処理を理解するとともに、預金に関する実務における課題を考察する。</p> <p>・ ワークシートにある具体的な預金の取引を通して、預金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。</p>			<p>・ 預金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査</p> <p>・ 小口現金の仕組みと記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査</p>

商業科 「簿記」

単元名

「商品売買の取引」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 商品売買の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 商品売買の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 商品売買の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商品売買の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	商品売買の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	商品売買の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（5時間）	1 3分法 2 仕入帳 3 売上帳 4 商品有高帳 商品売買に関する学習をとおして、一連の商品売買に関する会計処理を理解するとともに、商品売買に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある具体的な商品売買の取引を通して、商品売買の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知 思 態	○ ○	・ 仕訳、仕入帳・売上帳・商品有高帳への記帳等、商品売買に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 <u>ワークシート</u> <u>定期考査</u> ・ 商品売買の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 <u>観察・ワークシート</u> <u>定期考査</u>

商業科 「簿記」

単元名

「掛け取引」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 掛け取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 掛け取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 掛け取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
掛け取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	掛け取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	掛け取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（5時間）	<ol style="list-style-type: none"> 1 掛けによる売買 2 売掛金と売掛金元帳 3 買掛金と買掛金元帳 4 貸し倒れ <p>掛け取引に関する学習をとおして、一連の掛け取引に関する会計処理を理解するとともに、掛け取引や貸し倒れに関する実務における課題を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある具体的な掛け取引を通して、掛け取引の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 	知 思考	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掛け取引の記帳等、商品売買や貸し倒れに関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査 ・ 掛け取引や貸し倒れの記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査

商業科 「簿記」

単元名

「手形」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 手形取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手形取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（5時間）	<p>1 手形の種類 2 約束手形 3 約束手形の処理 4 手形の裏書き 5 手形の割り引き 6 受取手形記入帳と支払手形記入帳</p> <p>手形に関する学習をとおして、一連の手形に関する会計処理を理解するとともに、手形に関する実務における課題を考察する。</p> <p>・ ワークシートにある具体的な手形の取引を通して、手形の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。</p>	知 思考	○ ○	<p>・ 手形の意義を理解し、記帳等、手形に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査</p> <p>・ 手形の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査</p>

商業科 「簿記」

単元名

「有価証券」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 有価証券の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 有価証券の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対する。
- (3) 有価証券の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
有価証券の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	有価証券の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	有価証券の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（5時間）	1 有価証券 2 有価証券の購入 3 有価証券の売却 有価証券に関する学習をとおして、一連の有価証券に関する会計処理を理解するとともに、有価証券に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある具体的な有価証券の取引を通して、有価証券の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知 思 態	○ ○	・ 有価証券の意義を理解し、記帳等、有価証券に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査 ・ 有価証券の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査

商業科 「簿記」

単元名

「その他の債権・債務」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 債権・債務の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 債権・債務の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 債権・債務の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
債権・債務の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	債権・債務の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	債権・債務の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間		重点	記録	備考（評価規準・ <u>評価方法</u> ）
	<u>ねらい</u> ・学習活動			

<p style="text-align: center;">第一次 (5時間)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 貸付金と借入金 2 手形貸付金と手形借入金 3 前払金と前受金 4 未収金と未払金 5 立替金と預り金 6 仮払金と仮受金 7 受取商品券 	<p style="text-align: center;">知</p>	<p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ その他の債権・債務の意義を理解し、記帳等、債権・債務に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 <p style="text-align: center;">ワークシート 定期考査</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>その他の債権・債務に関する学習をとおして、一連の債権・債務に関する会計処理を理解するとともに、債権・債務に関する実務における課題を考察する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある具体的な債権・債務の取引を通して、債権・債務の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 			<p style="text-align: center;">思 態</p>

商業科 「簿記」

単元名

「固定資産の取引」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 固定資産の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 固定資産の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 固定資産の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
固定資産の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	固定資産の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	固定資産の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（5時間）	1 固定資産 2 固定資産の購入 3 固定資産の売却 4 固定資産台帳 固定資産の学習をとおして、一連の固定資産に関する会計処理を理解するとともに、固定資産に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある固定資産の取引を通して、固定資産の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知 思 態	○ ○	・ 固定資産の意義を理解し、記帳法等、固定資産に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 <u>ワークシート</u> <u>定期考査</u> ・ 固定資産の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 <u>観察・ワークシート</u> <u>定期考査</u>

商業科 「簿記」

単元名

「販売費及び一般管理費」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引

第14章 手形

第15章 有価証券

第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 販売費及び一般管理費の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 販売費及び一般管理費の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 販売費及び一般管理費の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
販売費及び一般管理費の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	販売費及び一般管理費の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	販売費及び一般管理費の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
----	----------	----	----	---------------

<p style="text-align: center;">第一次 (3時間)</p>	<p>1 販売費及び一般管理費とは 2 販売費及び一般管理費の記帳方法</p>	<p style="text-align: center;">知</p>	<p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 販売費及び一般管理費の意義を理解し、記帳法等、販売費及び一般管理費に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>販売費及び一般管理費の学習をとおして、一連の販売費及び一般管理費に関する会計処理を理解するとともに、販売費及び一般管理費に関する実務における課題を考察する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにある販売費及び一般管理費の取引を通して、販売費及び一般管理費の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 			<p style="text-align: center;">思 態</p>

商業科 「簿記」

単元名

「純資産（資本）の取引と事業主個人の税金」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

時間		重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
	ねらい・学習活動			

<p style="text-align: center;">第一次 (4時間)</p>	<p>1 資本の追加元入 2 資本の引き出し 3 所得税と住民税</p>	知	○	<p>・ 資本、個人事業主の税金の意義を理解し、記帳法等、資本、個人事業主の税金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。</p>
	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">資本、個人事業主の税金の学習をとおして、一連の資本、個人事業主の税金に関する会計処理を理解するとともに、資本、個人事業主の税金に関する実務における課題を考察する。</p>	思 態	○	<p style="text-align: center;">ワークシート 定期考査</p> <p>・ 資本、個人事業主の税金の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <p style="text-align: center;">観察・ワークシート 定期考査</p>

商業科 「簿記」

単元名

「個人企業の税金」

〔指導項目〕

第2編 取引の記帳（その1）

第11章 現金と預金の取引

第12章 商品売買の取引

第13章 掛け取引 第14章 手形

第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務

第17章 固定資産の取引

第18章 販売費及び一般管理費

第19章 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金

第20章 個人企業の税金

1 単元の目標

- (1) 個人企業の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 個人企業の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。
- (3) 個人企業の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人企業の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	個人企業の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	個人企業の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（3時間）	1 事業税 2 固定資産税 3 印紙税 4 消費税 個人企業の税金の学習をとおして、一連の個人企業の税金に関する会計処理を理解するとともに、個人企業の税金に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある個人企業の税金の取引を通して、個人企業の税金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知 思 態	○ ○	・ 個人企業の税金の意義を理解し、記帳法等、個人企業の税金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 <u>ワークシート</u> <u>定期考査</u> ・ 個人企業の税金の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 <u>観察・ワークシート</u> <u>定期考査</u>

商業科 「簿記」

単元名

「決算整理（その1）」

〔指導項目〕

第3編 決算（その1）

第21章 決算整理（その1）

第22章 8析精算表

第23章 帳簿決算

1 単元の目標

- (1) 決算整理について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 決算整理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 決算整理について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算整理について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	決算整理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算整理について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（9時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （3時間）	1 決算整理 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">決算整理の意義を実務と関連させて理解する。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 決算整理の意味と必要性を理解し、期中取引と決算整理取引の違いについて学ぶ。 	知思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決算整理について理論と実務に関連付けて理解し、関連する技術を身に付けている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観察・ワークシート</div> ・ 売上原価に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観察・ワークシート・</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペーパーテスト（定期考査）</div>
	2 売上原価の計算 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">売上原価の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、売上原価の計算と記帳法を理解する。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある売上原価の決算整理の記帳方法を学ぶ。 	知思		

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第二次（6時間）	<p>3 貸倒引当金の見積もり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>貸倒引当金の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、貸倒引当金の計算と記帳法を理解する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある貸倒引当金の決算整理の記帳方法を学ぶ。 <p>4 固定資産の減価償却</p> <p>5 棚卸表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>減価償却の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、減価償却の計算と記帳法を理解する。</p> <p>棚卸表の意味を実務と関連させて理解する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある減価償却の決算整理の記帳方法を学ぶ。 	<p>知 思</p> <p>知 思</p>		<p>・ 貸倒引当金に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察・ワークシート・</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ペーパーテスト（定期考査）</div> <p>・ 減価償却に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察・ワークシート・</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ペーパーテスト（定期考査）</div>

商業科 「簿記」

単元名

「8桁精算表」

〔指導項目〕

第3編 決算（その1）

第21章 決算整理（その1）

第22章 8桁精算表

第23章 帳簿決算

1 単元の目標

- (1) 精算表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 精算表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 精算表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
精算表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	精算表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	精算表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （5時間）	1 8桁精算表とは 2 8桁精算表の記入方法 8桁精算表に関する会計処理を理解するとともに、決算に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある8桁精算表の作成を通して、決算の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知思	○	・ 決算整理の意義を理解し、8桁精算表に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査

商業科 「簿記」

単元名

「帳簿決算」

〔指導項目〕

第3編 決算（その1）

第21章 決算整理（その1）

第22章 8析精算表

第23章 帳簿決算

1 単元の目標

- (1) 帳簿決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 帳簿決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 帳簿決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帳簿決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	帳簿決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	帳簿決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（9時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（3時間）	<p>1 帳簿決算</p> <p>帳簿決算の意義を実務と関連させて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帳簿決算の意味と必要性を理解し、仕訳帳の締め切り、総勘定元帳の締め切り、繰越試算表の作成について学ぶ。 ・ ワークシートにある取引例をもとに帳簿決算の記帳方法を学ぶ。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帳簿決算の手続きについて、正確な技術を身に付けている。 <p>観察・ワークシート</p>

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第二次 （2時間）	<p>2 財務諸表の作成</p> <p>財務諸表作成の学習をとおして、帳簿決算から外部報告書である財務諸表の作成の役割と実務における課題を考察するとともに、財務諸表の作成法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにある会計帳簿より財務諸表を作成する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 会計帳簿より財務諸表を作成する技術を身に付けている。 <p>観察・ワークシート・ ペーパーテスト（定期考査）</p>

商業科 「簿記」

単元名

「伝票式会計と会計ソフトウェア」

〔指導項目〕

第4編 伝票と会計ソフトウェア

第24章 伝票式会計と会計ソフトウェア

1 単元の目標

- (1) 記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（3時間）	1 証ひょう 2 伝票とは 3 3伝票制 4 伝票から総勘定元帳への転記 伝票式会計の意義を実務と関連させて理解する。 ・ 伝票式会計の意義と必要性を理解し、入金伝票、出金伝票、振替伝票の起票、集計、転記の方法について学ぶ。 ・ ワークシートにある取引例をもとに伝票式会計の記帳方法を学ぶ。	知	○	・ 伝票式会計の記帳法について、正確な技術を身に付けている。 観察・ワークシート

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第二次 （4時間）	5 会計ソフトウェアの活用 6 会計ソフトウェアの表示例 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 会計ソフトウェアの学習をとおして、会計ソフトウェアを活用した会計帳簿の作成と実務における課題を考察するとともに、会計ソフトウェアを活用した会計帳簿の作成法を理解する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにある取引例より会計ソフトウェアを活用した会計帳簿を作成する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 会計ソフトウェアを活用した会計帳簿を作成する技術を身に付けている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察・ワークシート・</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ペーパーテスト（定期考査）</div>

商業科 「簿記」

単元名

「決算整理（その２）」

〔指導項目〕

第５編 決算（その２）

第２５章 決算整理（その２）

第２６章 精算表と財務諸表の作成

1 単元の目標

- (1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（9時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （5時間）	<p>1 費用・収益の繰り延べと見越し</p> <p>費用・収益の繰り延べと見越しの学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、費用・収益の繰り延べと見越しに関する計算と記帳法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある費用・収益の繰り延べと見越しの決算整理の記帳方法を学ぶ 	知思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益・費用の繰り延べと見越しに関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 <p>観察・ワークシート・ ペーパーテスト（定期考査）</p>
	<p>2 消耗品の整理</p> <p>消耗品の整理の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、消耗品・消耗品費の計算と記帳法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある消耗品の整理に関する決算整理の記帳方法を学ぶ。 	知思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消耗品の整理に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 <p>観察・ワークシート・ ペーパーテスト（定期考査）</p>

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第二次 （4時間）	<p>3 有価証券の評価替え</p> <p>有価証券の評価替えの学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、有価証券の評価に関する計算と記帳法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにある有価証券の評価替えの決算整理の記帳方法を学ぶ。 	知 思	○	<p>・ 有価証券の評価替えに関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <p>観察・ワークシート・ ペーパーテスト（定期考査）</p>
	<p>4 固定資産の減価償却（間接法・定率法）</p> <p>減価償却の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、減価償却の計算と記帳法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにある減価償却の決算整理の記帳方法を学ぶ。 定額法と定率法、直接法と間接法の違いを指摘し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。 	知 思	○	<p>・ 減価償却に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <p>観察・ワークシート・ ペーパーテスト（定期考査）</p>

商業科 「簿記」

単元名

「精算表と財務諸表の作成」

〔指導項目〕

第5編 決算（その2）

第25章 決算整理（その2）

第26章 精算表と財務諸表の作成

1 単元の目標

- (1) 財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 財務諸表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 財務諸表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	財務諸表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	財務諸表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （6時間）	1 決算整理のまとめ 2 2区分損益計算書と貸借対照表 決算整理に関する会計処理を理解するとともに、決算に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある決算整理事項に基づき、決算の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知 思	○	・ 決算整理の意義を理解し、財務諸表作成に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査

商業科 「簿記」

単元名

「クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務」

〔指導項目〕

第6編 取引の記帳（その2）

第27章 クレジット売掛金と

電子記録債権・電子記録債務

第28章 特殊な手形の取引

1 単元の目標

- (1) クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（4時間）	1 クレジット売掛金 2 電子記録債権・電子記録債務	知	○	・ クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の意義を理解し、記帳等、クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務に関する学習をとおして、クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務に関する会計処理を理解するとともに、クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務に関する実務における課題を考察する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにある具体的なクレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の取引を通して、クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 	思 態	○	・ クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査

商業科 「簿記」

単元名

「本支店会計－本支店間の取引」

〔指導項目〕

第7編 本支店会計

第29章 本支店会計－本支店間の取引

第30章 本支店会計－合併財務諸表

1 単元の目標

- (1) 本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（4時間）	1 本支店会計 2 本支店間取引の記帳 3 支店間取引の記帳 本支店会計（本支店間の取引）に関する学習をとおして、一連の本支店会計（本支店間の取引）に関する会計処理を理解するとともに、本支店会計（本支店間の取引）に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある具体的な本支店会計（本支店間の取引）の取引を通して、本支店会計（本支店間の取引）の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知 思考	○ ○	・ 本支店会計（本支店間の取引）の意義を理解し、記帳等、本支店会計に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 <u>ワークシート</u> <u>定期考査</u> ・ 本支店会計（本支店間の取引）の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 <u>観察・ワークシート</u> <u>定期考査</u>

商業科 「簿記」

単元名

「本支店会計－合併財務諸表」

〔指導項目〕

第7編 本支店会計

第29章 本支店会計－本支店間の取引

第30章 本支店会計－合併財務諸表

1 単元の目標

- (1) 本支店の財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 本支店の財務諸表の作成に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 本支店の財務諸表の作成について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本支店の財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	本支店の財務諸表の作成に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	本支店の財務諸表の作成について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（5時間）	1 本支店合併財務諸表とは 2 本支店合併財務諸表の作成手順 3 合併後の貸借対照表と損益計算書の作成 本支店会計（合併財務諸表）に関する学習をとおして、本支店会計（合併財務諸表）に関する会計処理を理解するとともに、本支店会計（合併財務諸表）に関する実務における課題を考察する。 ・ ワークシートにある具体的な本支店会計（合併財務諸表）の取引を通して、本支店会計（合併財務諸表）の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	知 思 態	○ ○	・ 本支店会計（合併財務諸表）の意義を理解し、本支店会計（合併財務諸表）に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 <u>ワークシート</u> <u>定期考査</u> ・ 本支店会計（合併財務諸表）の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。 <u>観察・ワークシート</u> <u>定期考査</u>

商業科 「簿記」

単元名

「株式会社の会計処理」

〔指導項目〕

発展編 株式会社の取引

第31章 株式会社の会計処理

第32章 株式会社の税金

1 単元の目標

- (1) 株式会社の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 株式会社の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 株式会社の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
株式会社の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	株式会社の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	株式会社の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（6時間）	<p>1 株式会社とは 2 株式会社の純資産</p> <p>3 設立時の株式の発行</p> <p>4 増資時の株式の発行</p> <p>5 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振り替え</p> <p>6 剰余金の配当と処分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>株式会社の会計処理に関する学習をとおして、株式会社に関する会計処理を理解するとともに、株式会社の会計処理に関する実務における課題を考察する。</p> </div> <p>・ ワークシートにある具体的な株式会社の取引を通して、株式会社の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。</p>	知	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社の意義を理解し、記帳等、株式会社に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査 ・ 株式会社の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査

商業科 「簿記」

単元名

「株式会社の税金」

〔指導項目〕

発展編 株式会社の取引

第31章 株式会社の会計処理

第32章 株式会社の税金

1 単元の目標

- (1) 株式会社の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
- (2) 株式会社の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 株式会社の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
株式会社の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	株式会社の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	株式会社の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （3時間）	1 株式会社の税金 株式会社の税金に関する学習をとおして、一連の株式会社の税金に関する会計処理を理解するとともに、株式会社の税金に関する実務における課題を考察する。	知	○	・ 株式会社の税金の意義を理解し、記帳等、株式会社の税金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。 ワークシート 定期考査
	・ ワークシートにある具体的な株式会社の税金の取引を通して、手形の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。	思 態	○	・ 株式会社の税金の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。 観察・ワークシート 定期考査